

国際ロータリー第 2790 地区職業奉仕委員会
総括報告書

地区職業奉仕委員長
土屋 亮平(松戸RC)

ご案内の通り、本年度織田ガバナーは年度当初、地区職業奉仕委員会に2つのプロジェクトの実施を要請されました。

その要旨は、「ロータリーの原点に立ち返り『ロータリーの綱領(有益な事業を基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し)』即ち職業奉仕の再認識を諮ろう。その再認識を高める為の手段として、私たちは何故週一度ロータリーに集うのかとテーマを示され、毎週行われる例会が唯一無二であることを理解しました。」

そこで一つは地区職業奉仕委員会であります。地区職業奉仕委員会は、各クラブからの日程の要望に対して、職業奉仕の講演とシンポジュームの出前提供の実施を行いました。

ややもすると難解な論理に偏りがちであるために、等閑になりがちな職業奉仕に対し、一石を投じる試みを致しました。それは「道徳心の高揚に努めることが、最終的に己に還元される」と言う単純な表現に終始し、もっぱら職業奉仕の事例を挙げることに重点を置く手法であります。

冨・職業奉仕研修委員長以下4名の委員の懸命な努力に因り、60クラブを終了致し、年度内にはすべて終了いたす予定であります。各クラブの会長様はじめとする、各会員皆様の温かく積極的なご支援に、深く感謝を申し上げます。

二つ目はクラブ研修委員会でございます。このクラブ研修委員会は各分区ガバナー補佐選出クラブの会長様以下会員の皆様にご協力を頂き、海寶・地区クラブ研修委員長以下4名の委員が、「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」をテーマにした講演を行った後、10名ほどのグループ単位で1時間のディスカッションを実施し、その後各グループ毎に成果を発表して頂くという方法を採用致しました。私も14分区全てに参加致しましたが、流石ロータリアン、在籍年数に関係なく真剣にロータリーに取り組んで頂いて居られる様子をひしひしと感じ取ることができました。

ある分区では、「職業奉仕職業奉仕と声高に叫ばれるが、職業奉仕が蔑ろにされているからでないのか」と手厳しいご意見を頂きました。

正に老子の「大道廢れて仁義あり」を地で行くご意見でありました。「正しい道理が失われてしまうと、本來說く必要のない「職業奉仕、職業奉仕と言う道徳心が敢えて説く必要が生じてくる」、ズバリのご指摘に恐れ入ったのでありました。

又ある分区では、例会を「例会場は宝の山だ。沢山宝が落ちている、今日はどんな宝に出会えるか楽しみである」

また別の分区では「例会場で『落穂ひろい』に徹しております」、これらの発言には例会の捕え方に格段の進歩を感じました。

私も在籍 50 年にして、誠に新鮮な言葉と数々の教えに深く感動致しました。

これはほんの一、二例に過ぎませんが、職業奉仕研修のシンポジュームの真剣さ、クラブ研修のディスカッションのおおらかな発想に遭遇する度に、遠路の苦勞など何するものかと、心躍る思いを禁じえません。

この文をお借りして、忌憚のないご意見を申し上げさせて頂きますれば、第 2790 地区会員皆様の心温まる友情と、真摯にロータリーに取り組んで頂いている姿勢に、衷心より感謝を申し上げます。

尚、ロータリー情報のレベルの高さ、貪欲と言える探究心、どれを採っても他地区に誇りえるものと確信を致して居ります。

尚、我が職業奉仕委員会 10 名の委員皆様の職責に対する実直なる姿勢、労苦を惜しまぬ自己犠牲の精神に心から敬意とお礼を申し上げます

この報告書作成の折にも、その都度、その都度の思いが再現され、正に職業奉仕冥利に尽きましたことを付け加えさせて頂きます。

合掌

2011-1